



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



静岡新聞

記事を読んで、問いに答えなさい。

解答例

2021年3月23日朝刊西部版

①「災害ごみ」とはどのようなものか。

(例)地震や津波などの災害によって発生する建物のがれきや家財など。

②南海トラフ巨大地震による災害ごみはどのくらい発生すると推計されているか。また、それは東日本大震災の災害ごみの何倍か。

(約3億)トン
(10)倍

③南海トラフ巨大地震による静岡県での災害ごみの発生量の推計は全国的に見てどうか。

(例)愛知県に次いで2番目に多い。

④巨大地震後に発生する災害ごみについて、課題となることは何か。記事から読み取って50字以内で書きなさい(句読点を含む)。

南海トラフ巨大地震による災害ごみのブロック別推計発生量



南海トラフ巨大地震が起きた際、建物のがれきなど災害ごみが37都府県で計約3億トンの発生すると推計を環境省がまとめたことが22日分かった。東日本大震災を受けて2014年に出した推計を見直した。建物耐震化の進展などで14年より減ったが、地震の揺れのほ

たが、ほぼ処理を終えるのに3年かかった東日本大震災(約3千万トンの10倍。早期の復旧復興には処理の迅速化が欠かせず、環境省は対策の検討を急いでいる。関連記事25面へ

がれきや使えなくなった家財などの災害ごみは、地震の揺れのほ

が津波によっても生じる。推計では津波浸水域の内外をそれぞれ算出し、合計2億9919万4千トと算出した。浸水域内外合わせた最多は愛知の5168万7千トで、次いで静岡4092万1千ト、高知2860万1千ト。環境省が処理の地域的な枠組みとするブロック別では、中部(8034万8千ト)や四国(7226万9千ト)が多い。

推計に当たっては、内閣府の被害想定のうち、紀伊半島沖から四国沖で大津波が起き

環境省推計 東日本大震災の10倍

南海トラフ災害ごみ3億トン

近畿地方を中心に大きな被害が出るケースを推計した。14年推計での災害ごみ発生量は約3億4900万トだった。耐震化の進展に加えて、一度に生じる上、地域ごとの建物床面積などのデータを新に使い、精度を上げたことで推計量が小さくなった。地震の際は大量のごみが一度に生じる上、中部や四国で可燃物の処理が困難になることが判明している。

(例)

大	量	の	ご	み	が	一	度	に	発
生	し	、	廃	棄	物	処	理	場	の
被	災	も	見	込	ま	れ	る	た	め
、	処	理	が	円	滑	に	進	ま	な
い	可	能	性	が	高	い	こ	と	。

年 組 名前

作問者: 静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

(中学校~高校/社会、総合)